

平成24年度第7回遺跡見学会
平成24年10月13日（土）開催

幸手市

まきのじはらいせき

榎野地原遺跡 (第2次調査)



榎野地原遺跡は幸手市の東端にあり、^{しも}下総台地の^{うさ}西端部に位置しています。遺跡の北側には、西から東に向かって谷が入り込んでいます。第1次調査は、平成10年に幸手市教育委員会によって行われ、縄文時代前期の^{たて}竪穴住居跡が発見されています。

今回の調査は、江戸川の堤防強化工事に先立つものです。発見された遺^い構は、縄文時代前期（約6,000年前）と古墳時代前期（約1,700年前）の竪^{たて}穴住居跡と、江戸時代前半（約350年前）の墓の跡などです。

縄文時代の遺構は、調査区の南東側に数軒がまとまっており、竪穴住居跡からは形の復元できる土器が見つかりました。土^ど壙は住居跡の近くにあり、その1基から貝がまとまって出土しました。

古墳時代前期の竪穴住居跡は、調査区北西部で1軒見つかっています。出土した土器は、下総地域に特徴的なものです。

江戸時代の墓と考えられる土壙は、調査区北側の谷に面した場所で発見されました。形は円形と楕円形のものがありますが、いずれも小規模なものです。土壙墓からは、^{ひも}紐で結ばれた古^と銭（寛永通宝や北宋^{かん えい つう ほう}銭）や、ガラス製の^{しゆ}数珠^す玉^{だま}が出土しました。

主催：公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催：埼玉県教育委員会 幸手市教育委員会
国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所



第83号土層

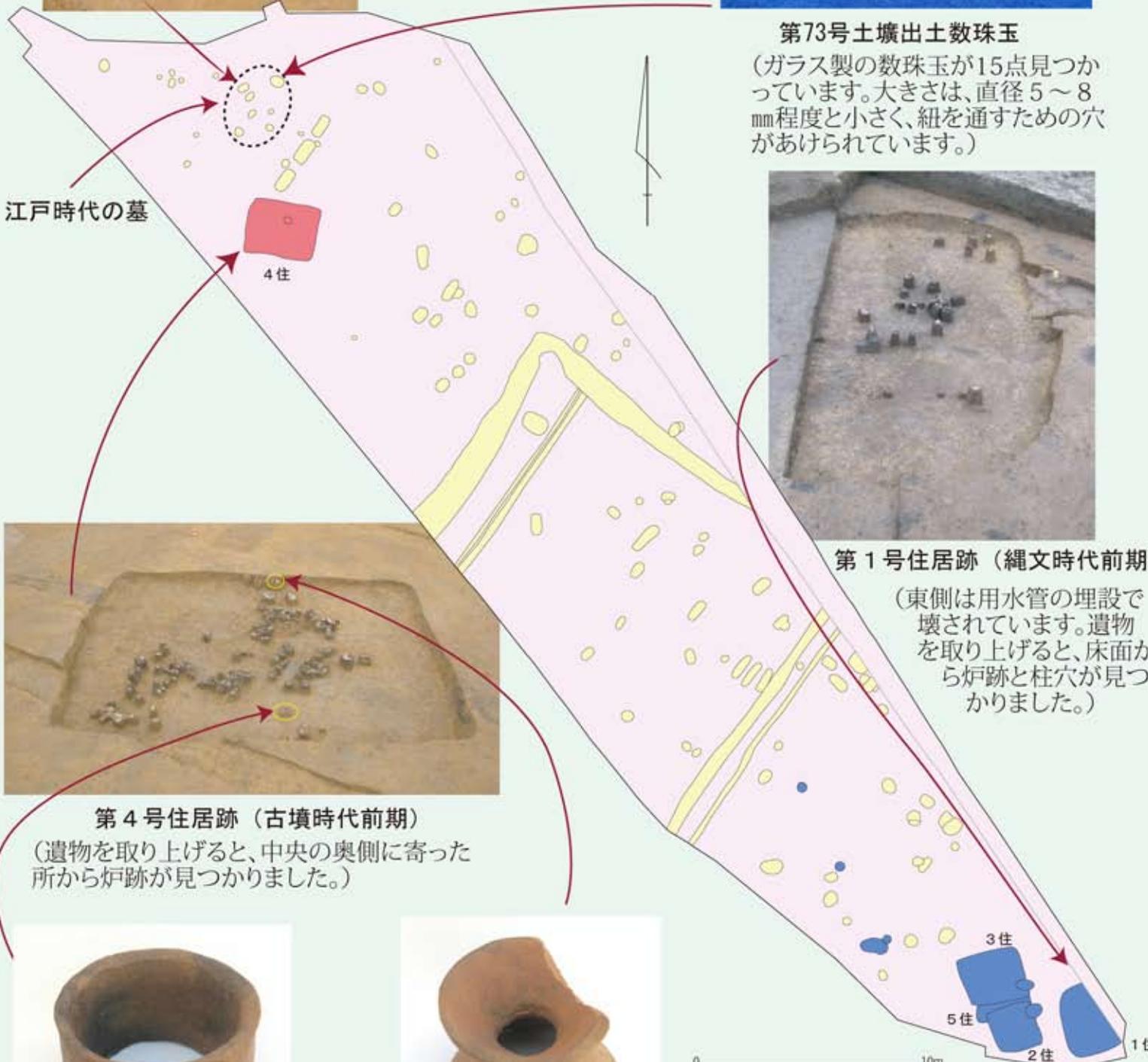


第83号土層出土の古銭
(寛永通宝6枚が紐で結ばれていました。)



第73号土層出土数珠玉

(ガラス製の数珠玉が15点見つかっています。大きさは、直径5～8mm程度と小さく、紐を通すための穴があげられています。)

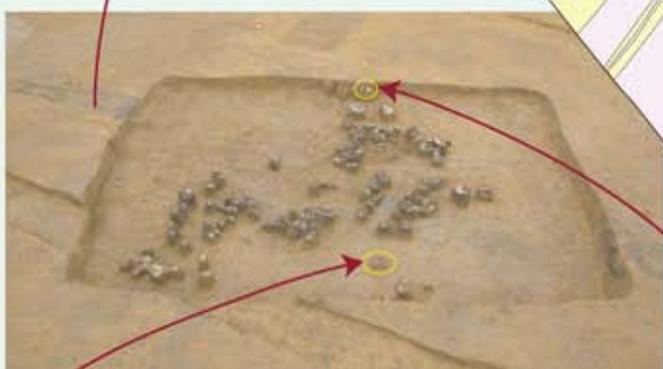


江戸時代の墓

4住

第1号住居跡 (縄文時代前期)

(東側は用水管の埋設で壊されています。遺物を取り上げると、床面から炉跡と柱穴が見つかりました。)



第4号住居跡 (古墳時代前期)

(遺物を取り上げると、中央の奥側に寄った所から炉跡が見つかりました。)



い けい き だい
異形器台

(器台とは安定の悪い器を載せる台のことです。異形器台は下総地域によくみられます。五徳(ごとく)としての機能が考えられています。)

- 縄文時代
- 古墳時代
- 江戸時代